

第二回留学報告書

2020年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生 五十嵐 祐花

2020年度9月よりマサチューセッツ工科大学の Electrical Engineering and Computer Science Department (EECS) に進学いたしました五十嵐祐花と申します。第一回の報告書では6月に入学したと記載しましたが、後に述べる手続きの諸事情により夏入学ではなく秋入学になりました。

この報告書を書いている2020年12月14日現在は渡米と入学から4ヶ月弱が経ち、早くも一学期が終わろうとしています。前回の報告書から半年が経ちましたが、早かったような遅かったような複雑な気持ちになっています。この半年はビザ関係のフラストレーションから始まり、新しい環境への適応と慣れに費やされ、正直なところ人生で最も productive な期間ではなかったです。半年以上大学に行けない生活を送っていて強く思うのは、やはり私はリモートに向かない、対面コミュニケーションが必要な人間なのだということです。生活は安定しているものの、新天地に移住した興奮は渡米後4ヶ月もすると燃え尽き、家にいるだけの日々不満が蓄積しています。



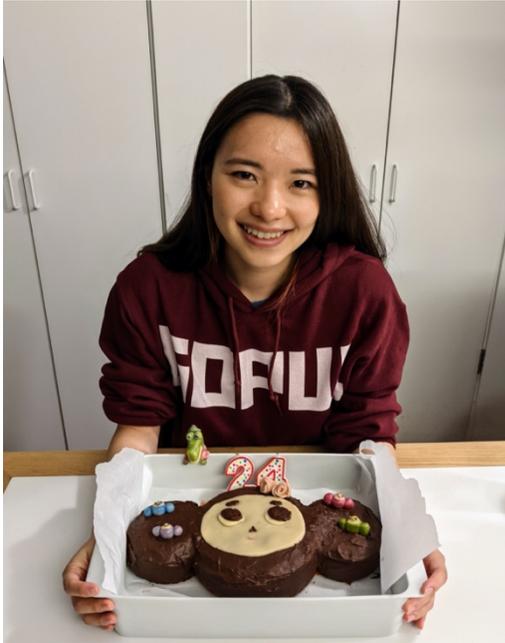
研究面の進捗は悪くなく、夏頃から二つのプロジェクトを並行して進めています。どちらも publication が可能な方向に進んでいます。一つは行列計算を効率的に行うプログラミング言語を作る

プロジェクト、もう一つは knitting machine のためのコンパイラのプロジェクトを行っています。どちらのプロジェクトもポスドクやシニアな学生と一緒にやっており、彼らにとっても細かく指導して頂けています。学びが多い一方、学部時代の専門（グラフィックス/HCI）からプログラミング言語とグラフィックスの共通部分に分野を変えたため、自分の圧倒的な知識・経験不足を自覚する場面も多く、早く自分自身がプロジェクトを考え主導出来るような知識を身につけたいと思います。

ラボの同期と彼の友達たちと Middlesex Fells にハイキングに行きました。

日々の生活はほぼ研究に費やされています。自分がカメラをオンにして発言する必要があるミーティングが週に12時間あり、これほど沢山の時間を割いて指導して頂けていることは本当に幸運です。平日の昼間はミーティングをするか発表の準備をし、土日や夜や早朝に実際のコーディングや授業の宿題を解くという生活を送っています。研究は充実していて楽しいですが、やはり留学の醍醐味は旅行をしたり優秀な仲間たちとラン

チやディナーを食べながら色々な議論をするところにあると思うので、そのような夢に見た留学生活が一刻も早く実現することを願っています。



ルームメイトが誕生日ケーキを作ってくれました！

授業は Theory of Computation という計算量理論の授業を履修しています。今学期は EECS 全体のポリシーで一年生は一つしか授業を取れないという制約があるため、皆一つの授業しか履修できません。EECS は厳しい Quals のようなものではなく基本的にはゆるい学科ですが、一応 PhD candidate に上がるためには三年生までに履修する4つの授業のうち3つはAを取らないといけないという決まりがあります。Theory of Computation は Theory 系の授業の中では一番評判が良く、ラボの同期二人が履修するという理由で自分も履修しました。先生は Introduction to Theory of Computation という有名な教科書を書いた数学科の教授で、教え方がとても丁寧で驚いています。東京大学では宿題や試験を提出しても採点されてフィードバックが帰ってくることは稀でしたが、この授業では必ず採点された答案が帰ってくるので透明性がありとても良いです。

Office Hour や recitation 等も盛んに開催されており、サポート体制は東大に比べて格段に充実していると感じます。この報告書を書いている4日後に期末試験があるのでAを取れるように頑張ります。

ここで、入学するまでの手続き関係のアップダウンについて話させていただきたいと思っています。3月に東京大学理学部情報科学科を卒業後、4,5月は東大で学術専門職員として働き、本来は6月から博士課程をスタートさせる予定でした。しかしながら4,5月の状況で6月から渡米することは考えられず（当時は「夏になれば流石に収まるのではないか」という楽観的な予想を立てていました）また事態が急だったため remote appointment も間に合わず、入学を8月に遅らせることになりました。

6,7月はMITのグループとリモートで研究を開始しつつ、本を読んだり映画を見たりしながら最後の実家暮らし&夫との生活を満喫していました。東海岸との時差が13時間で、時差を考慮して東海岸時間の夜8時=日本時間の朝7時からミーティングを行っていました。元来夜型の自分は朝早く起きるのが不可能すぎて前日に徹夜し、ミーティング終わったら寝て午後4時に起きるといった退廃的な生活をしていました。この経験から、百歩譲ってリモートワークをするにしても時差は本当に辛く、秋からは渡米して時差を解消する必要があると強く感じました。

5, 6 月は在日本米大使館が閉まっていたためビザを取る目処がつかず、8 月に本当に渡米できるのか不安でした。7 月初旬に Department of Homeland Security が「米国にいる外国人留学生は対面授業を取らなければ国外退去する必要がある」というルールを発行したため、留学生の間ではいつになく不安が高まりました。7 月中にこのルールは取り下げられましたが、8 月から入学する新入生に対しては「対面授業を取らなければビザが発行されない」という従来通りのルールが有効だったため、心労が消えることはありませんでした。結果的に MIT EECS は秋学期を hybrid にすると宣言し、実際に学期を通して 1 時間の対面授業（のようなもの）を開いてくれたため私は入国出来ました。一方、寮を契約して飛行機のチケットも取った後、渡米 1 週間前に大学がフルでオンラインになったため全てをキャンセルした知り合いが複数人おり、米国に留学する新入生にとっては非常に厳しい時期でした。

結果的に米国大使館の emergency visa interview を利用しギリギリでビザを取ることができ、8 月中旬に渡米することが出来ました。渡米後は Cambridge のシェアハウスで二人の日本人博士学生と暮らしており、とても充実した生活を送っています。いくつか写真を載せましたが、数人の MIT の学生とピクニックをしたりハイキングに行ったり、ルームメイトに誕生日を祝ってもらったりして楽しく過ごしています。

結びになりますが、留学を実現するチャンスを与えてくださった船井情報科学振興財団の皆様誠に感謝いたします。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。